

ブルース・リー通信

NO 2



華麗！凄絶！
全世界をゆるがす雄叫びをあげて
最後のブルース・リーが翔ぶ！
THE GAME OF DEATH

さらばブルース・リー

死亡遊戯

ブルース・リー主演 / 〈燃えよドラゴン〉のロバート・クローズ監督
カラー作品 / ゴールデン・ハーベスト・プロ作品GH



東宝東和提供

「さらばブルース・リー 死亡遊戯」
がいよいよ完成する

「さらばブルース・リー 死亡遊戯」がいよいよ完成する。

ブルース・リーが撮影開始してから実に五年、未完のままになっていた彼の最後の作品がついに完成を見るのだ。武道家としての技をすべて盛り込み、世界最強のファイターマンであることをこの作品で示そうとした。

その待望の映画「死亡遊戯」が七月に撮影を開始したのだ。

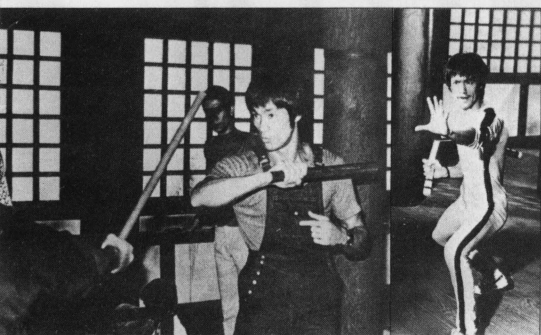
一九七七年、カンヌ映画祭に出席したブルース・リーの育ての親、レイモンド・チョウ氏によると、七月に撮影を開始して、十一月に完成する。

「死亡遊戯」のハイライトとなる、カレム・アブドゥール・ジャバル、ダニー・イノサントス、田俊、黄仁植などの武道家たちによるファイター・シームはすでに撮り終えているので、その部分を最高に活かしたストーリーを極秘のうちに進め、かならず十一月に完成させると語った。

カンヌ映画祭で配られたポスターによれば、ブルース・リーが、オートバイに乗っているスチールが使われている。

世界中のブルース・リー・ファンが待ちに待った「死亡遊戯」が刻々と完成していくとおもうと胸がわくわくしてくる。

あの怪鳥音が、あのマンチャクが、再び甦る!!



さらばブルース・リー 死亡遊戯

カラー作品/G・Hプロ作品/東宝東和提供 THE GAME OF DEATH

ブルース・リーの命日に寄せてへスクリーン編集部 宇井寿之

ブルース・リーという香港の人気スターが死んだ。

このニュースを聞いたのは、73年の夏のある日だった。しかし香港映画など日本ではめったに公開されないし、ましてや当時まったく無名の俳優とあって、すぐにその名を忘れてしまった。後年、自分がその彼の遺影を追って奔走することになるとは、夢にも思わなかったのである。

そしてその年の暮、「燃えよドラゴン」を試写で見て度胆を抜かれてしまうことになる。香港映画ということで大した期待もなく、また主演者のブルース・リーという名もすっかり忘れていたのだが、娯楽に徹した映画の面白さもさ

ブルース・リーを想う

香港の友人から電話があった。10分前だ。遊びに来ている。新宿へ飲みに来ていく約束だ。日本へは、たびたび来る。映画や俳優のプロモーションが彼の仕事だ。ブルース・リーともつきあいがあった。香港の連中は、気軽に遊びにやってくる。ブルース・リーも来たことは、ご存知のとおりだ。

リーが生きていれば、と思う。彼の友人にはほとんど会った。生きていれば、きっとブルース・リー・ファミリーの一員に、小生が入る余地はあったろう。うぬぼれ、ではない。何回か、香港へ行つてつかんだ雰囲気で確信している。

ロバートが契約問題をこじらせた。

ることながら、飛鳥のように飛び舞うそのヒーローの小気味よい痛快さにすっかり魅了されてしまった。これがリーとの最初の出会いであった。

間もなく日本でも爆発的人気となり、今は亡きこのスターの事を取材してまわることになるのだが、ただ単に仕事というだけでなく、若くして世を去ったこのスーパー・スターに対する個人的興味も大なるものがあつた。

今年もまたその彼の命日がめぐって来た。公開が延びている遺作「さらばブルース・リー 死亡遊戯」が早く見られる事を望むと共に、彼の冥福を祈りたい。

ヘロッドショー編集部 稲田祥宏

彼自身の責任ではない、と言っておく。リーの友人であつた関係者が激昂して言つた。兄貴がいれば、弟を殺しただろう、と。いいかげんなことは断じて許さなかつた。リーの、そういう激しさと優しさが、好きだ。

命日、といつてもさして感慨はない。日頃、死者も行方不明者も同じだと思つている。答が帰つてこないだけの話だ。ただ、彼を見送つたひと達の、美しい言葉を思いだす。J・コバーンの「さようなら兄弟よ、君とひとときをわかちあえたことは光栄であつた。ありがとう」、夫人の、供花に添えられた「縁続来生」…。これ以上の言葉を、小生は持たない。